

## 地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを考える

### 高橋治道ゼミナール

08M003	石田美希	08M004	板垣友祐
08M018	近藤 翔	08M051	榎谷貴広
08M065	渡邊尚史		
07M023	齋藤健二	07M038	中村良胤



# 目 次

1	はじめに	II-94
1.1	取り組みの趣旨	II-94
1.2	取り組みの目的と明らかにする内容	II-94
2	神谷信用組合をめぐる経過	II-95
2.1	神谷信用組合の歴史	II-95
2.2	買い取りの経緯	II-96
3	旧神谷信用組合の建物の活用に向けた神谷地区の取り組み	II-96
3.1	これまでの取り組み	II-96
4	旧神谷信用組合の建物を活用した地域活性化について	II-97
4.1	現地調査・ヒアリング	II-97
4.2	活用方法について	II-98
4.3	建物内の配置	II-100
4.4	休憩所	II-100
4.5	直売所	II-101
4.6	畑	II-101
4.6.1	畑の貸し出し方法	II-101
4.6.2	畑貸し出しの対象者	II-103
4.6.3	料金	II-103
4.6.4	区画	II-103
4.6.5	貸出期間	II-103
4.6.6	設備	II-104
4.6.7	禁止事項	II-104
4.6.8	農業指導	II-104
4.6.9	畑貸し出しによるメリット	II-105
5	地域コミュニティに対する住民意識	II-105
5.1	調査項目	II-105
5.2	アンケート調査の結果	II-105
5.2.1	神谷地区の防犯について	II-106
5.2.2	住民同士のつながりと交流について	II-109
5.2.3	神谷地区の防犯について	II-110
5.5	アンケート調査のまとめ	II-115
6	まとめ	II-116
	参考文献	II-117
	謝辞	II-118

## 1 はじめに

### 1.1 取り組みの趣旨

近年、少子高齢化問題や若者の都会への流出、災害等様々な理由から多くの農村地域が衰退しています。そんな中、中越地震等をきっかけとして、自分達の歴史文化を守り、伝統を残していくために、自分達で地域活性化を行う活動が各地で取り組まれています。長岡市神谷地区の住民達もただ市や国がなんとかしてくれるのを待つのではなく、自分達の村は自分達で守って行くのだという思いを一つにして地域の活性化に取り組んできています。

前年度まで高橋ゼミナールでは、「安全・安心・文化的なまちづくりーICT を活用した長岡を考えるー」というテーマで神谷地域に着目し、地域コミュニティ活性化要因を明らかにする取り組みを行って来た。これまでのゼミの取り組みを踏まえて、今年度は「ー地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを考えるー」をテーマとし、地域に残された文化、歴史、建築物などの資産を守りながら地域の活性化をはかる“方策”と“住民意識”を明らかにすることとした。具体的には、神谷地区が取得した旧神谷信用組合の建物と休耕畑を連動させた活用による地域活性化と“神谷地区の住民意識の調査を考える”。

### 1.2 取り組みの目的と明らかにする内容

現在神谷地区では、自分たちの手で地域活性化を行い、村と伝統を守り、住みよい地域づくりを目的として活動している。しかし、地域を活性化させるにはどのようなことをやっていったらよいかに対する予め決まった答えはなく、より多くの案の中から具体策を定め、実行に移して行く必要がある。そのため、住民達の案だけでなく、幅広い分野・世代から案を求め、その中から自分たちで実行できる活性化案を採用し、実行してゆくことになる。

高橋ゼミナールでは、学生あるいは若者の視点で神谷地区の地域活性化をサポートできないかと考え、平成21年に神谷の住民たちが買い取った旧神谷信用組合の建物等を利用した地域活性化を考えこととした。また、地域活性化を行うには、そこに住む住民たちが地域に対してどのような意識を持っているかが重要なポイントとなることから、神谷地区の住民意識の調査を実施することとした。

## 2 神谷信用組合をめぐる経過

### 2. 1 神谷信用組合の歴史

明治29年 信用組合を設立（農業協同組合のもと）

明治37年 神谷信用組合創設

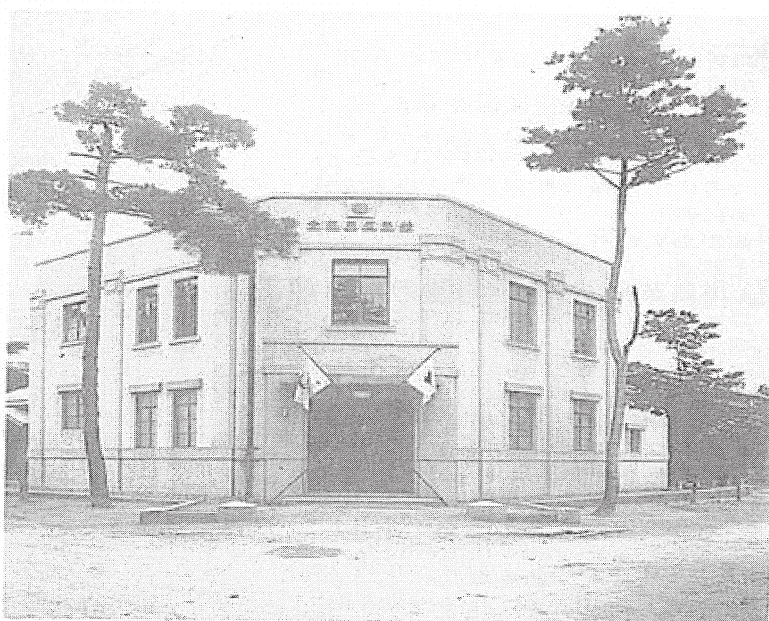
図表2-1



創立当時の事務所

昭和3年 鉄筋コンクリートの建物を新築

図表2-2



神谷信用組合事務所全景  
(現神谷出張所 昭和3年竣工)

平成21年11月 神谷が買い取る

図表2-3



## 2.2 買い取りの理由

神谷地区が旧神谷信用組合の建物を購入した理由は次の5点である。

- ① 神谷の歴史を物語る遺産である。
- ② 大地主高橋九郎氏を中心としてすすめられた「地区の産業活性化」の象徴的な建物である。
- ③ 産業史・建築的視点からの価値が高い。
- ④ 保存と活用を通して神谷の歴史と文化を後世に伝える。
- ⑤ 歴史的な建物の保存活動を通して住民間の交流を図る。

## 3 旧神谷信用組合の建物の活用に向けた神谷地区の取り組み

### 3.1 これまでの取り組み

- ・ 歴史・文化の会 設立世話人会（平成21年10月）
- ・ 文化講演会 講師：長岡大学松本和明先生（平成21年10月）
- ・ 歴史・文化の会 第1回設立総会（平成21年12月）
- ・ 写真の収集と時代背景のフリートーク（平成22年3、4月）
- ・ 写真収集の開始（平成22年6月）（※1）
- ・ 市民活動団体助成事業に採用（平成22年8月）
- ・ 収集写真の展示（平成22年8月）
- ・ 第1回写真展示会（平成22年11月）

図表 5 - 1



図表 5 - 2



- 文化講演会 講師：長岡造形大学 平山育男先生（平成23年2月）
- 写真展示会 長岡市民センター（平成23年2月2日～28日）

#### 4 旧神谷信用組合の建物を活用した地域活性化について

##### 4.1 現地調査・ヒアリング

今取り組みを始めるに当たり、旧神谷信用組合の現地調査とヒアリングを2回にわたって実施した。

第1回

日時 7月20日

対象者 神谷区長 白井湛氏

歴史・文化の会事務局長 丸山信昭氏

内容 旧神谷信用組合の建物の説明（買い取り理由や現在建物をどう利用しているかなど）とこれまでの神谷の取り組みについて話を聞いた。

図表 4 - 1



図表 4 - 2



## 第2回

日時 12月14日

対象者 神谷区長 白井湛氏

内容 旧神谷信用組合の近くにある畑の現状について話を聞くとともに、現場に行き畑の現状を確認。

耕作者の高齢化により、約20反の畑のうちの半分近くが耕作放棄に近い状態になっていることが分かった。

図表4-3



図表4-4



### 4.2 活用方法について

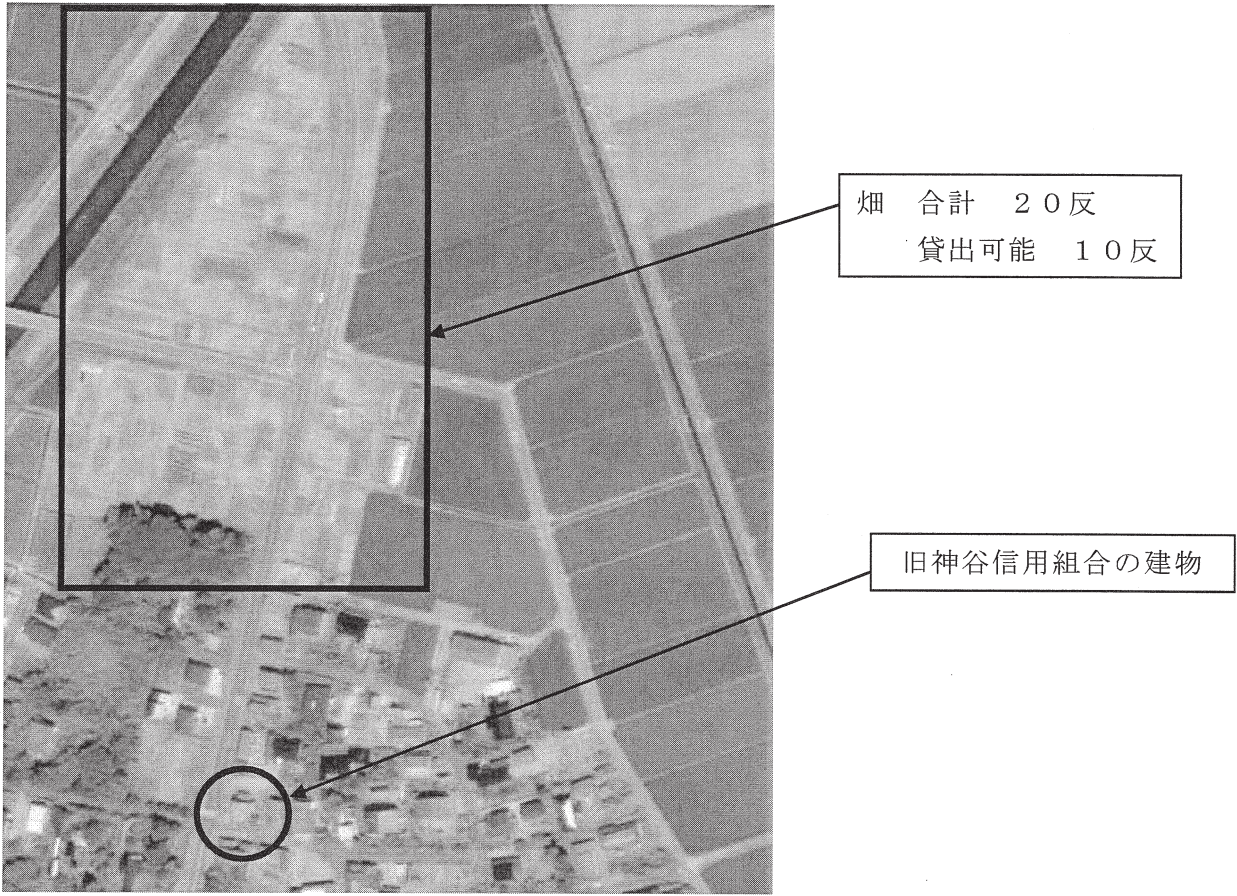
2回の現地調査・ヒアリングの結果、旧神谷信用組合の建物と神谷地区にある畑とを連動させた、活性化策を考えることにした。

理由として次の5点である。

- ① 耕作者の高齢化により、畑作を辞めたいと思っている人が多い
- ② エコブーム等で都市の人には畑作希望がある
- ③ お年寄りによる農業指導→地域内外の人との交流、お年寄りの意欲向上
- ④ 建物が交通の便が良いところに位置している
- ⑤ 旧神谷信用組合の建物と畑の距離は100mと近く、建物を活用するのに適している。



図表 4 - 5 神谷地区の地図

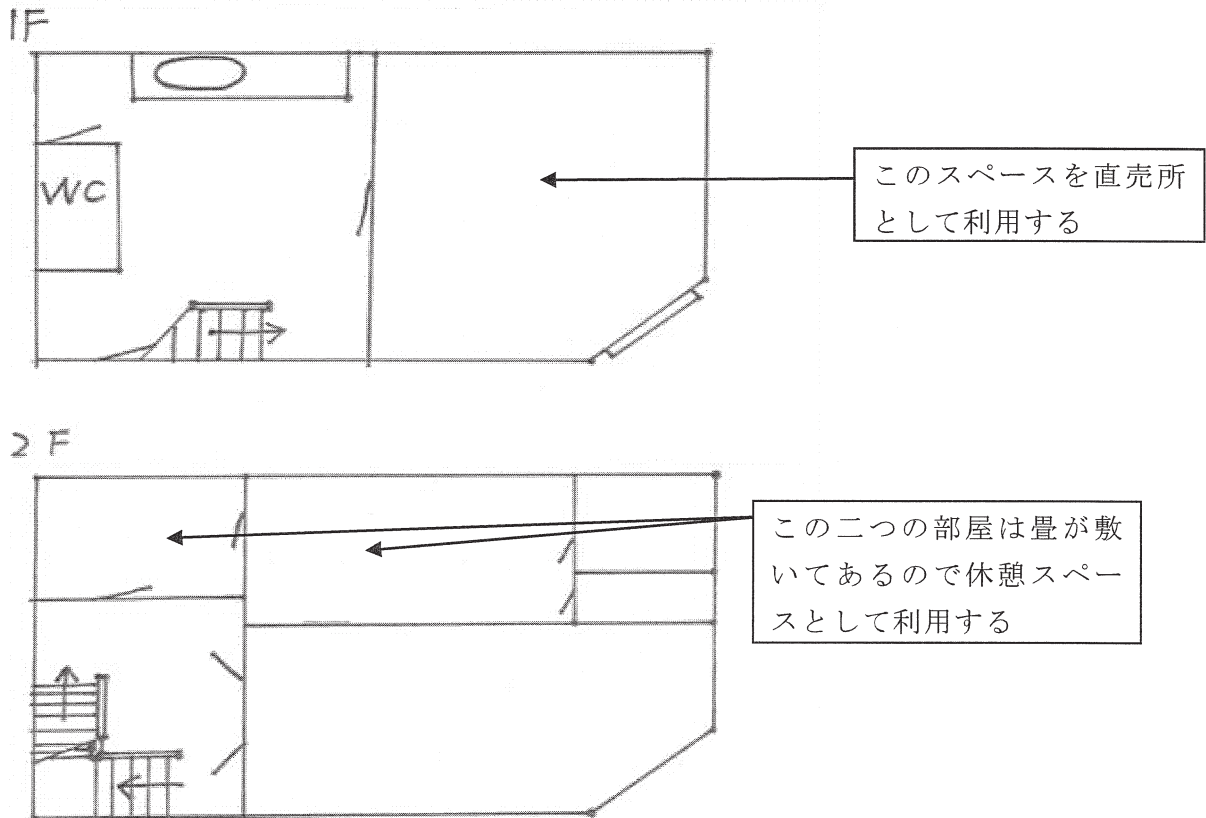


### 4. 3 建物内の配置

旧神谷信用組合の建物は、交流の拠点として、一階に畑で収穫した野菜や神谷地区で作られた加工品、工芸品などを売る直売所、二階に畑作りの人のための休憩所として利用することにした。

また、畑の所有者と畑作希望者との橋渡しを行う仲立ち組織を作り、その事務所もこの建物内に置くことを考えている。

図表 4 - 6 建物内の配置



### 4. 4 休憩所

畑貸し出しの利用者が農作業後に休憩する場として利用してもらおう。また神谷地区の住民の方にも自由に来ていただき、地域内外の交流の場として利用してもらおう。

施設内の畳の部屋2ヶ所は休憩スペースとして使い、隣接する右側2ヶ所の部屋は物置や仮眠スペースとして利用を考えている。

施設内で使用する机などの家具は、住民の方達からの寄付を利用することとし、あたたかみのある場所に仕上げていくことを考えている。また、壁には、収集した神谷地区の古い写真や資料(※1)を展示し、地域外の人にも神谷地区の事を知ってもらうことができ、交流する際の話のきっかけ作りできるようにする。

#### 4. 5 直売所

直売所では、①畑で採れた野菜、②加工品、③工芸品などを売ることとする。

- ① 売りたいと希望する人の野菜を売る。営利目的での畑作は禁止しているのので、原則として多く作り過ぎ、作った人が消費できない分とする。
- ② 神谷地区オリジナルの弁当、漬け物、佃煮、菓子など。
- ③ 神谷地区で作られた工芸品などを売る。藁を使った米俵のストラップや蓑などを商品としていく。

また、元々金融機関の建物であったことから、厳重な金庫があり、資料やお金等を保管するのに適しているのので、畑貸し出しの受付所をここに置き、貸出事務を行うこととする。

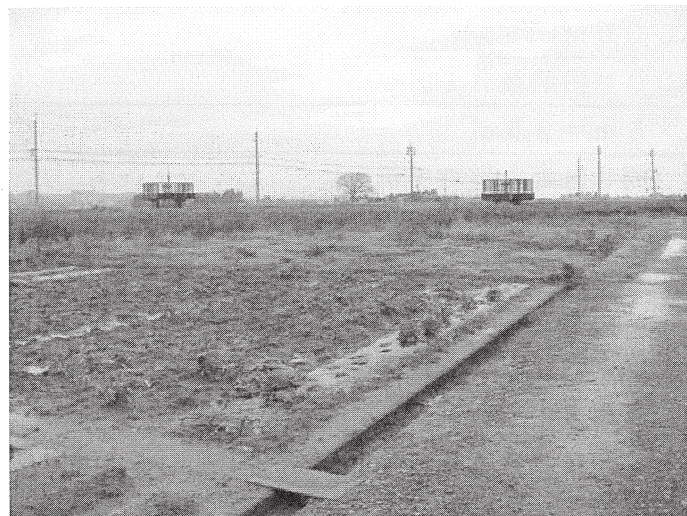
#### 4. 6 畑の貸し出し

現在の神谷地区は、耕作困難な畑が増えている（図表4-6、4-7、4-8、4-9）。そこで、図表4-11の条件で、畑の貸し出しを行うこととする。

図表4-7 現在の畑



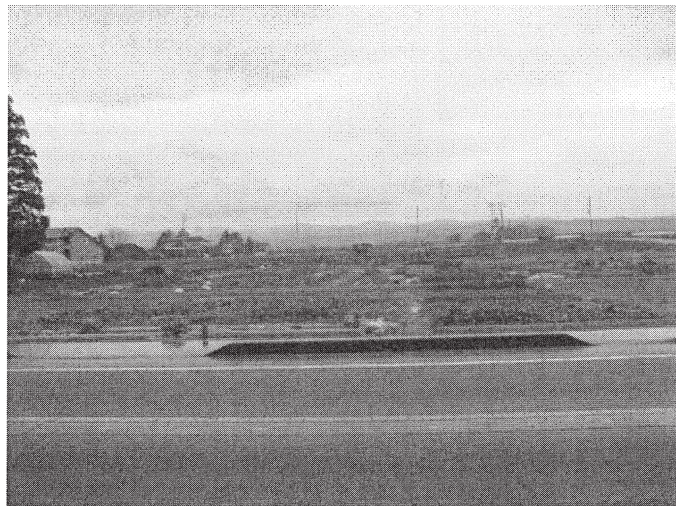
図表4-8 現在の畑



図表 4 - 9 現在の畑



図表 4 - 1 0 現在の畑



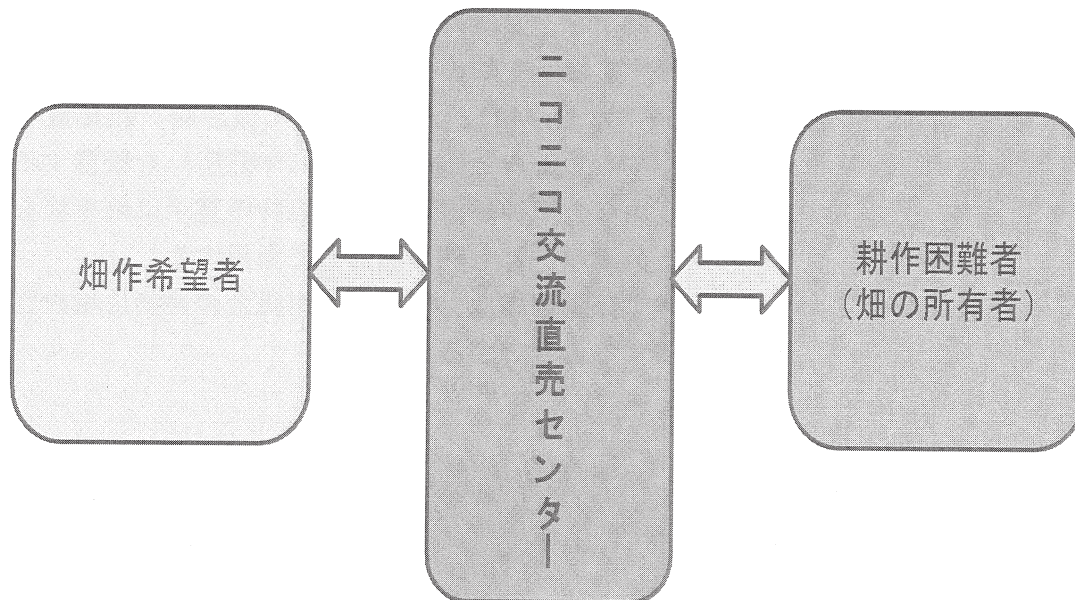
図表 4 - 1 1 畑の概要

土地面積	1 0 0 0 0 m <sup>2</sup>
料金（年間）	1 0 0 0 0 円前後（1 区画）
区画	5 m × 5 m = 2 5 m <sup>2</sup>
貸出期間	1 年（同じ区画を契約更新可）
設備	水道 トイレ レンタル農具 ゴミ置き場 雑草置き場 道具入れ 東屋（休憩所） 管理事務所 更衣室 駐車場
禁止事項	借りた区画を転貸（又貸し） 借りた区画内に建物を設置 農薬の使用禁止 営利目的の作物を栽培 法律、条約、規則に反する行為
備考	農業指導を行う

#### 4. 6. 1 貸し出し方法

畑の貸し出しは、畑の所有者と畑作希望者との仲立ち組織・ニコニコ交流直売センター（名称仮）を作り、このセンターが仲立ちして貸し出すこととする。

図表 4-12 畑貸し出しのシステム



#### 4. 6. 2 貸し出しの対象者

貸し出し対象者は、地区外の人で県内の人とする。畑の貸し出しは地域の活性化が目的であるため、営利目的ではなく趣味で畑を作る人に限ることとする。こうすることにより、地区外の人達を多く神谷に呼び込むことができるのではないかと考える。

#### 4. 6. 3 料金

料金は、一年間で1区画10000円前後を予定している。この料金にした理由は、他の畑貸し出しを行っている場所の料金（おおむね10000円前後）を参考にした。

また、畑の所有者は、貸出面積に応じた手数料をセンターに払うこととする。センターは、この手数料収入を建物の維持管理費などにあてる。

#### 4. 6. 4 区画

区画の面積は場所により前後するが、 $5\text{ m} \times 5\text{ m} = 25\text{ m}^2$ を基本とする。区画をこの面積にした理由は、趣味で畑を作りたいという人達を貸し出し対象とすることを考えているため、 $4\text{ m} \times 0.6\text{ m}$ の畝が大体3~4本取ればよいのではないかと考えこの面積にした。

#### 4. 6. 5 貸出期間

貸出期間は、1年間とする。ただし、畑の土づくりに相当の年月を必要とする場合も考えられるので、同じ区画を契約更新することが出来るものとする。

#### 4. 6. 6 設備

畑作業は土が相手であることから、土にまみれたり、汗をかいたりして体が汚れる。そのため、センターにはロッカー、更衣室、シャワールームを設置する。また、とれた作物も調理してみんなで楽しめるように、センター内に調理場を設置する。

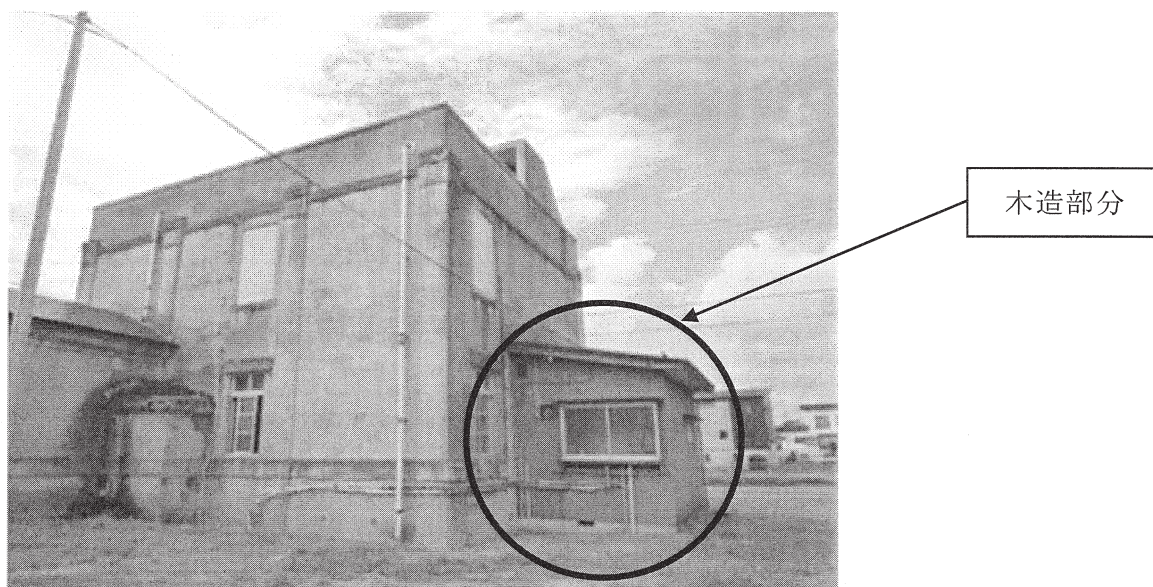
気軽に畑を楽しんでもらうには、農機具をセンターがあらかじめ用意しておくことが求められるため、レンタル農具（鍬や鋤など。農機の貸し出しは行わない）をセンターに用意する。さらに、個人の道具を保管する場所を畑の一面に設置する。

畑には、作物に水をやるための水道（水やり用）、トイレ、ゴミ置き場、雑草置き場を用意する。また、センターに戻らなくてもちょっと休める東屋（休憩所）を設置する。

さらに、車で来る人が大半であろうから、旧神谷信用組合の建物の裏手に駐車場を設置する。足りない場合は建物の前にある公園の一部も駐車場として利用する。

なお、更衣室とシャワールーム、および調理場は、旧神谷信用組合の建物に増設された木造部分を壊し、新たに増設して設置することとする。

図表 4 - 1 3



#### 4. 6. 7 禁止事項

地域活性化のための畑の貸し出しであるために借りた区画の転貸（又貸し）、借りた区画内への建物の設置、農薬の使用禁止、営利目的の作物の栽培、法律、条約、規則に反する行為は禁止とする。

#### 4. 6. 8 農業指導

畑を貸し出すにあたり、希望者へは、農業指導を行ったほうが良いと考える。指導者は、経験豊富なお年寄りにやってもらうのが良いのではないかと考える。農業指導を行ってもらうことにより、地域内外の人との交流、お年寄りの意欲向上に繋がると考える。

#### 4. 6. 9 貸し出しによるメリット

畑の貸し出しによるメリットは3点ある。

- ① 畑の貸し出しによる地域内外の人達の交流ができる。
- ② 農業指導によるお年寄りの意欲向上につながる。
- ③ 畑を貸し出すことによって、畑の所有者は畑を耕作しなくてすみ、畑を作りたいと思っている人は畑を作ることができる。

①、②の理由としては、農業指導をしてもらうことにより地域内外の人達と交流することができ、その交流によりお年寄りの意欲が向上すると考えられるためである。

③の理由としては、現在の神谷地区では高齢化が進み、畑をやめたいと思っている人がいる。しかし畑を管理しないしていると雑草が生えてしまい周りに迷惑がかかるのでやめることができない。畑を貸し出すことにより、やめたいと思っている人が畑を管理しなくてすみ、畑を作りたいが場所がないという人達が畑を作ることができる。

### 5. 地域コミュニティに対する住民意識

#### 5. 1 調査項目

- ① 調査対象：神谷地区
- ② 配布数：163 票
- ③ 調査方法：手紙による
- ④ 調査期間：平成22年12月～平成23年1月24日
- ⑤ 調査項目
  - I 神谷地区の防犯について
  - II 住民同士のつながりと交流について
  - III 神谷地区の防災について

#### 5. 2 アンケート調査の結果

##### ①回収状況とアンケート調査の結果

○回収状況

配布数：163 票

回収数：56 票

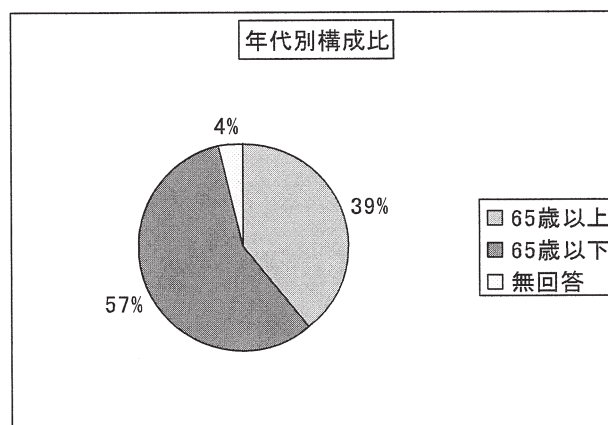
回収率：34.0%

回答者の属性

##### I 年代

年代	件数	比率
65歳以上	22	39.0%
65歳以下	32	57.0%
無回答	2	4.0%
総計	56	100.0%

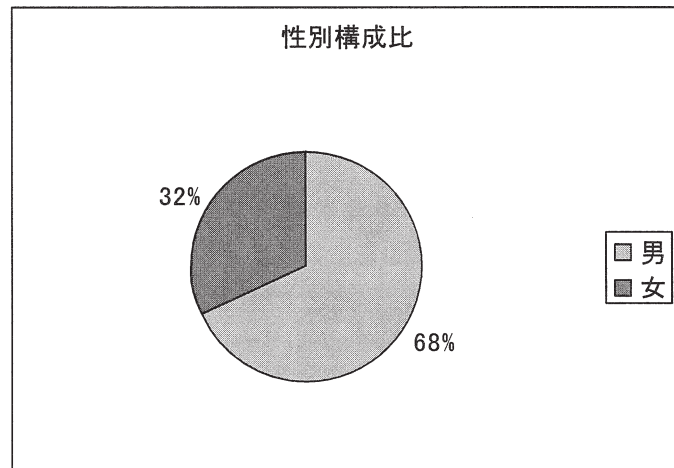
図表5-1



図表 5 - 2

II 性別

性別	件数	比率
男	36	32%
女	18	68%
総計	56	100%

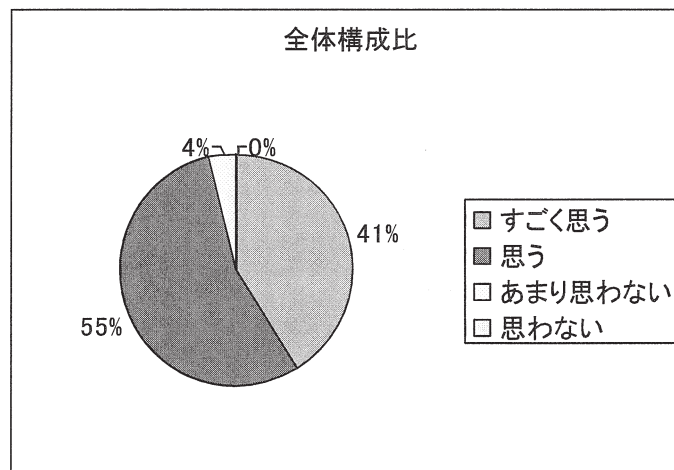


5. 2. 1 神谷地区の防犯について

設問 1. 防犯対策として隣近所との交流、つながりは重要だと思いますか。

「すごく思う」と「思う」で 9 割以上を占めており、ほとんどの住民が隣近所との交流、つながりは防犯対策に必要だと考えていることが分かった。理由として、日頃からの情報交換が重要、昼間は老人だけで留守番になる、近所の人があると安心できるなどの回答が多かった。

図表 5 - 3

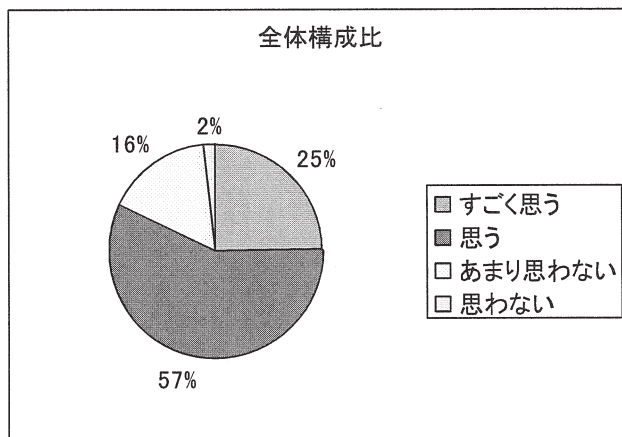


設問 2. 神谷地区で行われている各種の行事は、住民同士のつながり強化に役立っていると思いますか？

約 8 割の住民が行事はつながり強化に役立っていると回答している、主な理由は、「普段合わない人と話ができる、交流の場になる」などが多かった。「あまり思わない」「思わない」を選んだ理由としては、「個々のつながりは出来るが全体としては疑問、若い人があまり参加していないため役立っているとは言い難い」などの回答であった。



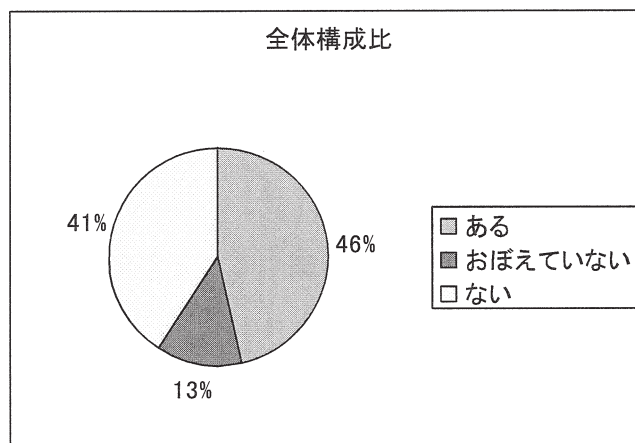
図表 5 - 4



設問 3. 隣近所や親しい人の中で、不審者、空き巣、訪問販売などの情報を知らせあったりしたことがありますか？

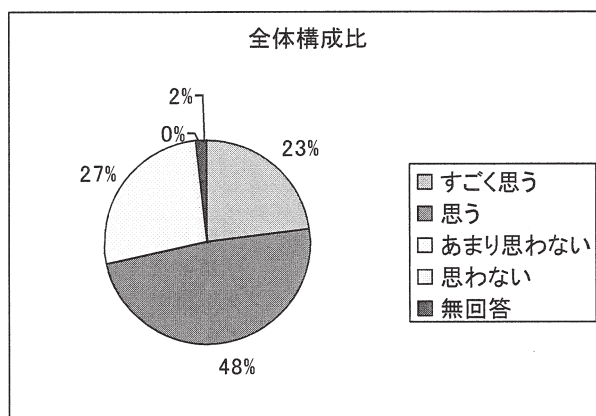
「ある」と「ない」の回答がほぼ半々になった。「昼間仕事で家にいないが、家族が近所の人から情報を教えてもらう」といった回答があった。

図表 5 - 5



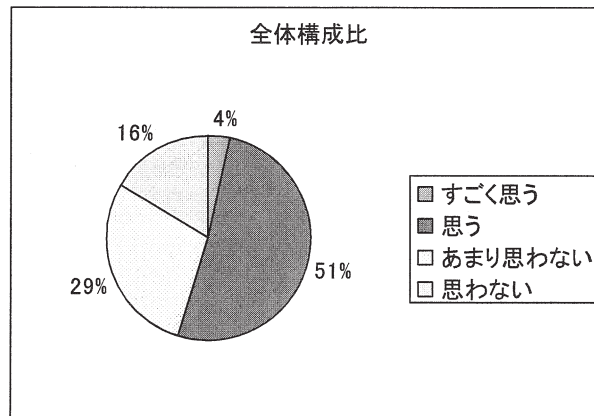
設問 4. 犯罪を未然に防ぐために、地域住民によるパトロール活動は有効だと思いますか？

図表 5 - 6



設問 5. 有志を募ってパトロール活動を行うとしたら参加してもよいと思いますか？

図表 5-7



設問 6. あなたがぜひパトロールしてほしいという場所があれば御記入下さい。

設問 4 から、半数以上がパトロールは有効だと考えていることが分かった(図表 5-6)。

また、設問 5 から、もしもパトロールを実施するのであれば約半数以上が協力しようと考えていることが分かった(図表 5-7)。

設問 6 より、パトロールして欲しい場所としては、子どもの通学路関係の回答が特に多かった。他に高速道路ボックスの付近、一人暮らしの老人の家付近、裏通り、神社、公園などの回答があった。

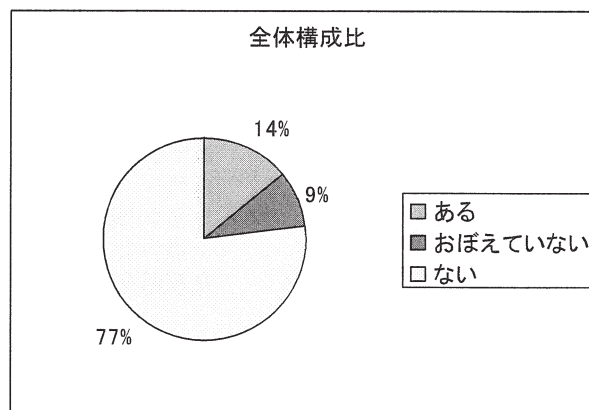
設問 7. あなたが防犯に関して、神谷に何か希望することがあれば御記入下さい。

「街灯の数を増やしてほしい、照度をアップしてほしい」といった回答が一番多かった。

他にも、「一人暮らし老人への配慮、安否確認、不審者の情報を回覧板などでまわしてほしい、みんなが気軽に話ができる場が欲しい」などの回答もあった。

設問 8. 長岡市のホームページにある犯罪情報などを参照したことはありますか？

図表 5-8



認知度を高めるための努力を、市はするべきだと思った。

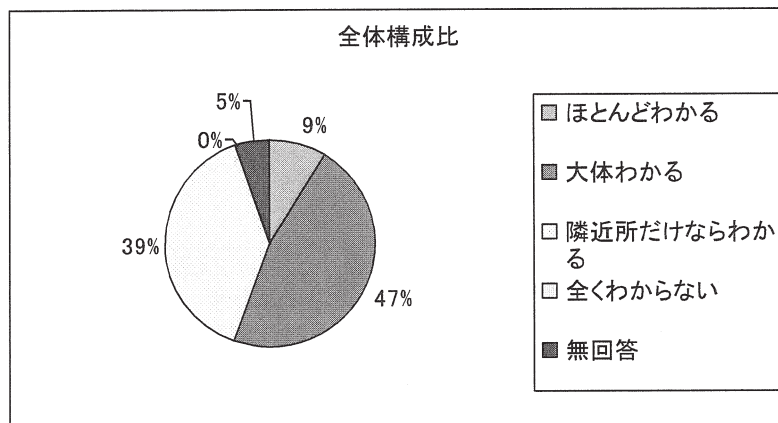
設問 9. 防犯に関して長岡市にしてほしいことはありますか？あれば御記入下さい。

長岡市に対しては、「街灯を増やして欲しい、照度をあげてほしい、点検をしてほしい」等街灯に関する回答が多くみられた。次に多かったのが「以前あった防災無線を復旧して欲しい」という回答だった。他にも「警察と協力したパトロール、悪徳販売業者の情報を流して欲しい、情報をもっと早く流して欲しい」などの回答が挙げられた。

### 5. 2. 2 住民同士のつながりと交流について

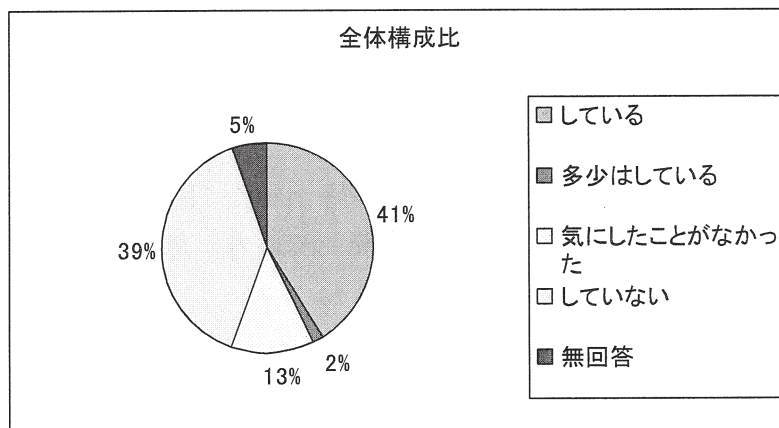
設問 10. 地域の中でどこに誰が住んでいるかわかりますか？

図表 5 - 9



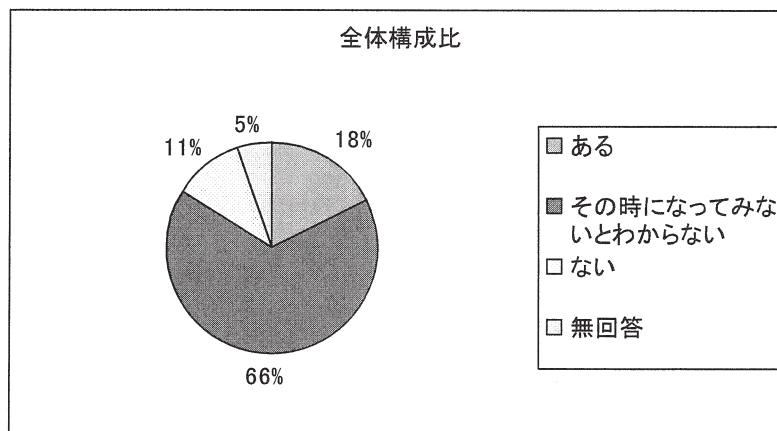
設問 11. 老人が一人暮らししている家の場所を把握していますか？

図表 5 - 10



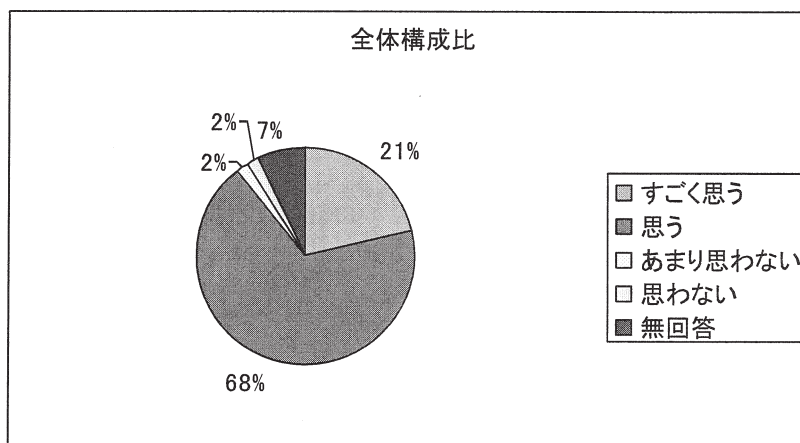
設問 1 2. 隣近所に何か異変があった場合、すぐに気づくことが出来る交流はありますか？

図表 5 - 1 1



設問 1 3. 隣近所の人困っていたら出来る範囲で協力しようと思いますか？

図表 5 - 1 2



設問 1 0 より、近所の人なら顔を知っているということが分かった（図表 5 - 9）。設問 1 1 より、老人が一人暮らししている家に対する関心のない人が多く、近所づきあいだけではなく、区及び市が何か配慮をしなければいけないと感じた（図表 5 - 1 0）。

また隣近所の異変に対する気づきに関する設問 1 2 では、隣近所に何か異変があっても、その時になってみないと分からないといった回答が多かった（図表 5 - 1 1）。しかし、設問 1 3 では、ほとんどの人が困っていれば出来る範囲で協力したいと答えており、つながりは十分あると感じることができる（図表 5 - 1 2）。

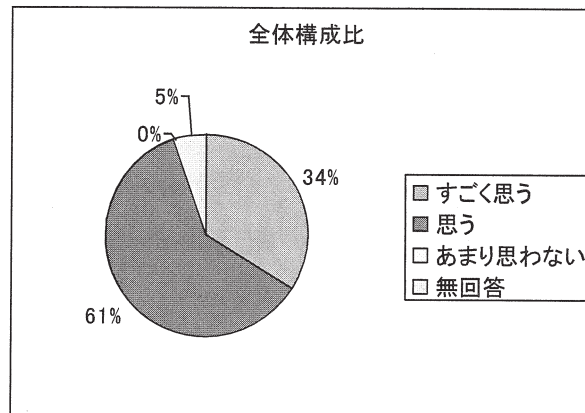
### 5. 2. 3 神谷地区の防災について

設問 1 4. 防災対策として隣近所との交流、つながりは重要だと思いますか？

「地震の時に助け合うことができ、とても重要だと思った。」という回答が一番多かった。

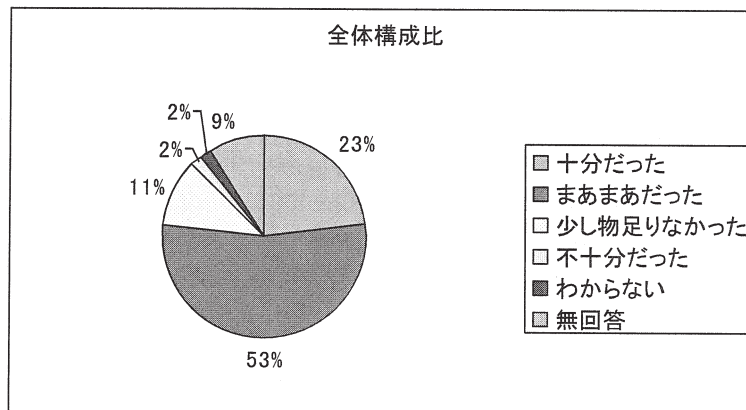
他にも「安否確認がしやすくなる、日中は老人が家で一人なため近所のみなさんの助けがなければやっていけない、迅速な行動につながる、知らん顔するわけにはいかない、助け合いの精神」等の回答があった。

図表 5 - 1 3



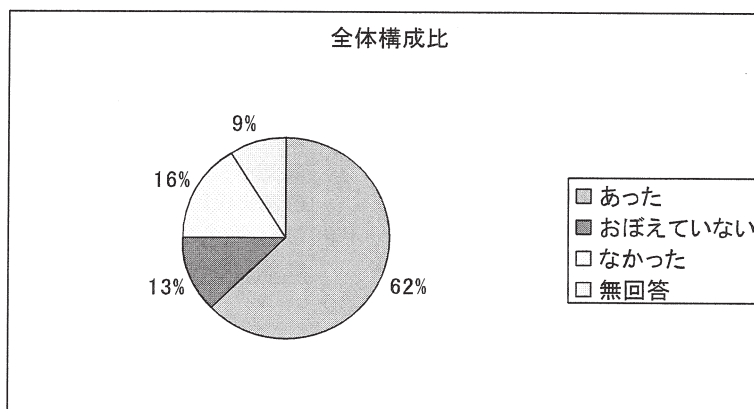
設問 1 5 . 中越地震の際、神谷地区としての支援は十分でしたか？

図表 5 - 1 4



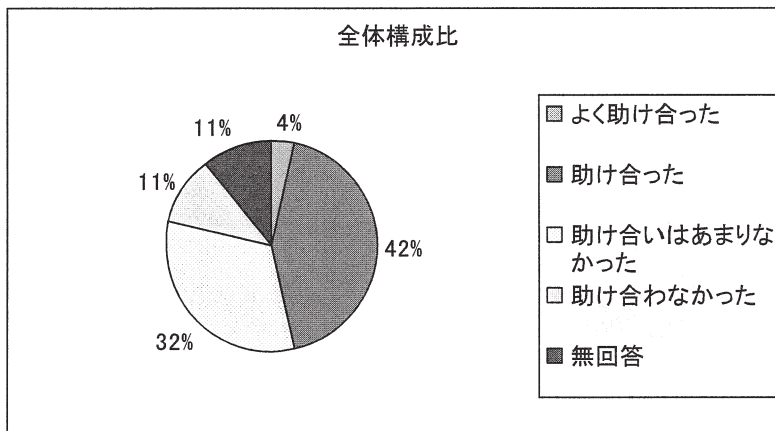
設問 1 6 . 中越地震の際、近所同士の助け合いはありましたか。

図表 5 - 1 5



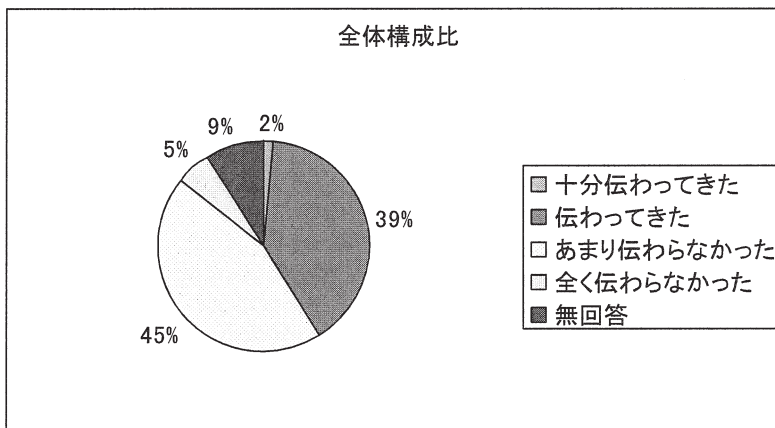
設問 17. 中越地震の際、普段は交流のない人とも助け合いましたか？

図表 5 - 1 6



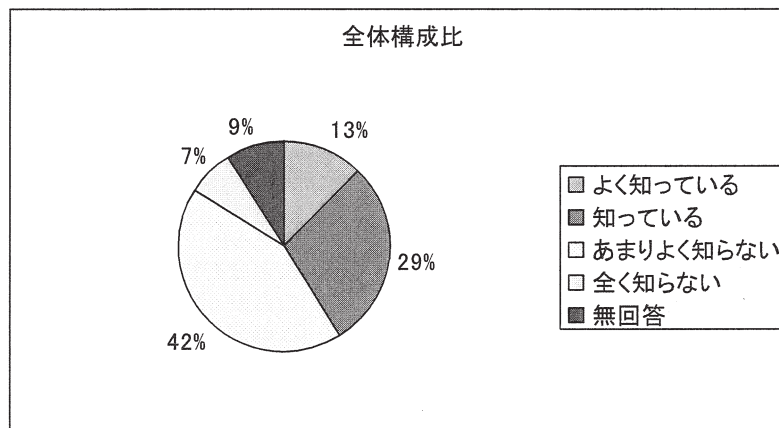
設問 18. 中越地震の際、知りたいと思った情報は上手く伝わってきましたか？

図表 5 - 1 7



設問 19. 中越地震の際、神谷が行った活動には、どのようなものがあったか知っていますか？

図表 5 - 1 8



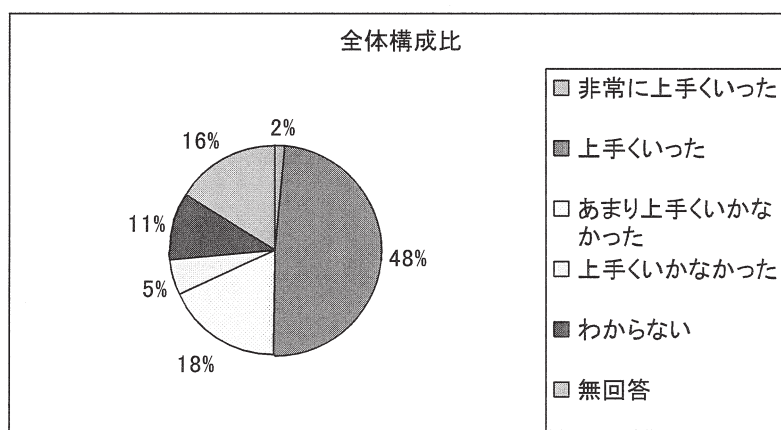
設問 15 より、地区としての支援はまあまあと感じている人が一番多いことが分かった (図表 5-14)。

また、設問 16 により、近所の人と助け合った人が多かったことが分かった (図表 5-15)。しかし設問 17 の回答結果を見ると、普段交流がない人との助け合いは半分以上があまり行っておらず、日頃から交流を持つことの重要性が感じられる (図表 5-16)。

さらに、設問 18 より、かなりの人が情報の不足を感じていたことがわかる (図表 5-17)。また設問 19 の回答によれば、地区で行った活動をかなりの人が認知しておらず (図表 5-18)、それが設問 15 で「まあまあ」が一番多いという結果につながったと考えられる。

設問 20. 中越地震の際、以前から住んでいた住民と新しく越してきた住民との協力は上手く行われたと感じますか？

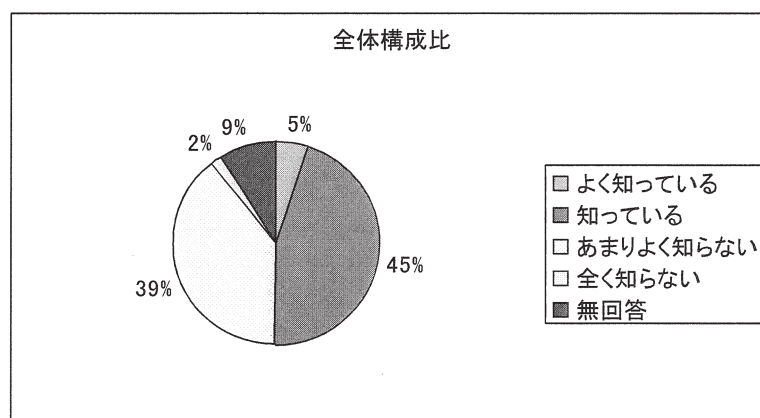
図表 5-19



半分以上が上手かったと答えており、日頃からの交流が役に立ったと考えられる。

設問 21. 中越地震の際、行政からどのような援助があったか知っていますか？

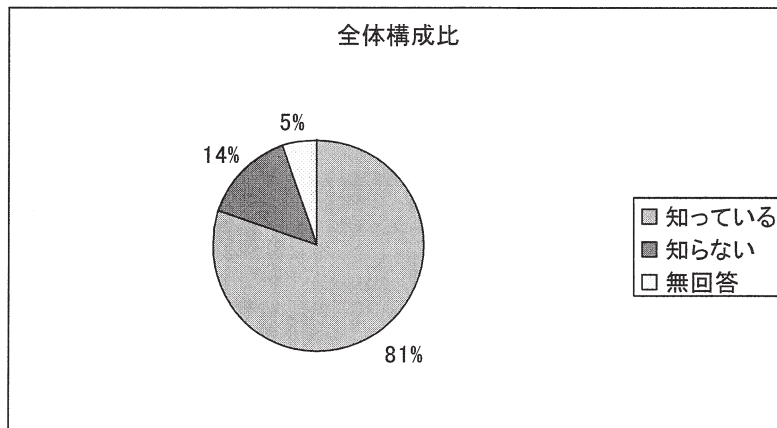
図表 5-20



半分以上の人が知らないと答えており意外だった。

設問 2 2. 災害の際の避難場所がどこか知っていますか？

図表 5 - 2 1



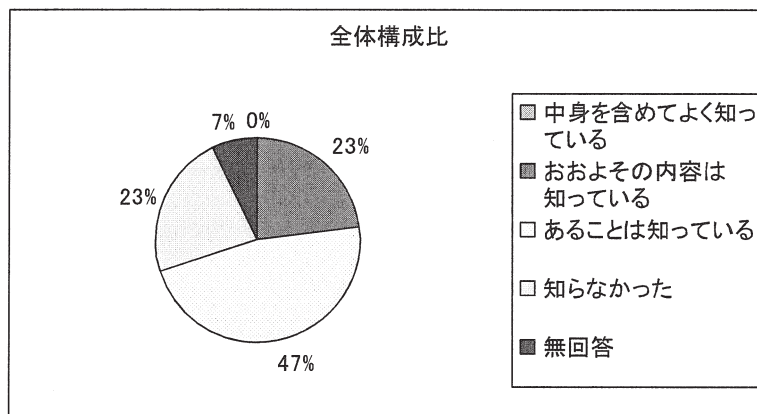
8割の人が知っていると答えていることから、避難場所はよく認知されているといえるが、これは是非とも「知らない」という回答が無くなるようになってほしい。

設問 2 3. 災害の際、神谷にして欲しい活動を御記入下さい。

食料・水の提供、迅速な情報提供という回答が多くあった。先の震災では、情報提供の遅れが目立ったのか、それに対する不満が多く挙げられた。特に災害無線の復旧は多くの人が望んでいる。

設問 2 4. 長岡市の防災マップの存在を知っていますか？

図表 5 - 2 2



防災マップの存在を知らないと答えた人は約 2 割強であったが、「あることは知っている」や「無回答」を含めると 8 割近くの人が、防災マップの内容を知らないことが明らかになった。多くの人から一度は目を通し内容を知っておいてほしい事柄である。災害はいつ何時襲いかかってくるかわからないので、日ごろから不測の事態に備えておくことが大事である。



### 5. 3 アンケート調査のまとめ

アンケートの内容に不備があり、回答者を混乱させてしまった部分もあったものの、多くの人が、地域のつながり強化が防犯・防災に効果を発揮すると考えていることが分かった。

防犯に関しては、地域住民の目を活用したネットワークによって犯罪を未然に防ぐことが重要だと感じる。そのために情報の伝達を効果的かつ効率的に行う必要があることがわかった。見守りネットワークともいべきこのネットワークは、神谷地区に住む人全員の協力があって初めて作れるものである。

ネットワークの他に住民が必要としているものは、街灯であることが分かった。特に冬は暗くなるのが早く、真っ暗な道を歩くことが多くなるために犯罪に巻き込まれる危険性が高まる。街灯のあるなしで安心感は大分違ってくるのだろう。

地域のつながりと交流については、近所同士ならば顔見知りであり、災害時に助け合うことのできる土壌は出来ていると感じる。しかし、一人暮らしの老人などは突然何が起きるのか分からないので、元気で居るかどうかをもう少し頻繁に確かめる仕組みの必要性を感じた。

防災に関しては、やはりほとんどの人がつながりの大切さを認識しており、助け合うことで安心できるといった回答もあった。しかし、情報伝達の面ではかなりの人が不満を感じており、中越震災の際に必要な情報が中々手に入らないもどかしさを感じたようだ。災害時に求めるものは水・食料と正確な情報であることが分かった。

これからの課題としては、独居老人との交流、助け合い、情報の迅速な共有をどう行うか、何かあったとき隣近所だけでなく地区全体で活動するシステムづくりなどが挙げられるだろう。

## 6 まとめ

本活動を通して、旧神谷信用組合の建物と耕作が困難な畑を連動させた活性策により、地域外の人が神谷に訪れることによる交流や農業指導によるお年寄りの意欲向上が図られ、活気に満ちた神谷地区になるのではないかと考える。

本活動の今後の課題としては、①畑の貸し出しに伴う設備の設置、②直売所の具体化案、③建物の維持管理費、④畑の維持管理、⑤規約について、⑥修復・増築のコストがある。

①の畑の貸し出しに伴う設備の設置については、畑の貸し出しを行う上で必要な農具・肥料の置き場や畑の散水設備などの設置場所をどこにするかを、今後も神谷地区を訪問し具体的に決めていく必要がある。

②の直売所の具体案については、収穫した野菜や加工品、工芸品などを取り扱う商品として考えているが、さらに具体的に検討していく必要がある。加工品は、弁当や菓子などを取り扱うと決めたが、今後は弁当の中身やどのような菓子を扱うのか決めて行かなければならない。工芸品も同様にどのようなものを扱うか決めて行かなければならない。

③の建物の維持管理費では、旧神谷信用組合の建物の維持管理のための費用の確保を考えなければならない。現在は、畑の賃貸料や直売所の収益などで補っていくことになるかと考えている。

④の畑の維持管理に関しては、畑の日頃の維持管理をどうするかが課題である。今のところは、畑の所有者や現役農家の方に協力してもらうことを考えている。また、畑作を一度も行ったことのない人への技術指導の体制も考えておくことが必要である。現在は、畑作りの経験者に農業指導を行ってもらい、畑作りのノウハウを教えていきたいと考えている。農業指導をしてくれる方がいるのかどうかなどを調査活動で明らかにして行かなければならない。

⑤の規約に関しては、このたびの活動の中で試案を提案したが、さらに詰めていく必要がある。今後は実際に畑貸し出しを行っている場所を調査し、その結果を踏まえてさらに検討を加えてゆくことが必要である。

⑥の修復・増設のコストについては、畑貸し出し料と直売所の収益をこれにあてることを考えているが、まだ修復や増築を行う際にかかるコストを具体的に計算していない。今後はコストを計算して、畑貸し出しと直売所の収益だけで足りるのか、足りなければどこから不足分を出すのかを検討しなければならない。

神谷地区へのアンケート調査を通して、地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを実現するには、地域コミュニティ活動を絶えさせずに続けていくことが大切だということが明らかになった。そのために一番大切なことは、多くの若者を活動に引き入れながら、老若男女を問わない交流と協働活動を日ごろから行い、しっかりと次代へと活動を受け継いでゆくこと大切である。

若者を活動の後継者として育て、防犯・防災のための地域ネットワークを構築し、若者に不足している部分は老人が補い、老人に不足している部分は若者が補うことによって、相互依存の関係が築かれ、豊かで安全・安心な暮らしに繋がっていくと考える。

## 参 考 文 献

1. 安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会：  
「安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会」報告書、  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/anzen/houkoku/04042302.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/anzen/houkoku/04042302.htm)、2004.4
2. 大竹、笹岡、外川、廣井、山田、渡辺：ICT 活用による安全・安心に向けた検討、平成20年度活動報告第Ⅱ部学生による研究成果報告①、p.99-151、長岡大学、2009.3
3. 内藤孝：高橋九郎、郷土長岡を創った人々、p.54-55、長岡市、2009.3

## 謝 辞

本調査活動を進めるにあたり、お忙しいにも関わらず快くヒアリング及び旧神谷信用組合の現地調査を受けてくださった神谷区長白井湛氏、歴史・文化の会事務局長丸山信昭氏、活動を進めるうえで適切なアドバイスを下さったアドバイザー桑原真二氏に感謝申し上げます。

また、アンケート調査に快く協力くださった神谷の皆さんに御礼申し上げます。